

サーサナ

第3号 仏暦2551（西暦2008）年6月1日

殺すな 殺させるな

すべてのものは暴力に脅えている。すべてのものは死を恐れている。

自分の身にひきあてて殺してはならない。殺させてはならない。

これは仏教の最も古い經典である『ダンマパダ』（法句經）の言葉です。

現代日本に生きる私たちにとって、これは当たり前のごとくに思われます。しかし、かつてこれが当たり前ではなかった時代がありました。世界のいたるところで、「戦争で相手を殺して領地を拡大する」ことこそが常識であったのです。古代インドもそうでした。アメリカの喜劇俳優・チャップリンは、「人を一人殺せば犯罪者だが、戦争で百人殺せば英雄になる」と戦争を風刺しましたが、まさしく人殺しを人殺しと感じさせないのが戦争です。そして、戦争を批判する者は非国民・憶病者とののしられていたのです。私たちの宗門（大谷派）でも、60余年前までは積極的に戦争協力し、反戦非暴力をとる僧侶はごく例外的でした。

今こそ日本は「平和な世の中」になって、命の尊さをだれもが口にできるようになりました。殺してはならない、とは私たちの常識となりました。しかし、殺させてはならない、というのは自分が殺さない以上にむずかしいことです。自分が殺さないのは自分一人の決意の問題ですが、殺させないためには、現実の場に関わって積極的に阻止しようとする努力が必要です。釈尊自身、当時のインドの強国であったマガダ国やコーサラ国に対し、ある時は進言しある時は体をはって、戦争をやめさせようとなさいました。

世界各地で殺戮が絶えないのが現状です。戦争だけでなく、国内少数民族への弾圧（大量殺人）もあります。この現状を看過して、自分さえ平和で安全ならそれでよしとするのか、それとも少しでも声をあげてやめようとするのか、私たちは釈尊からまびしく問われています。

法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。

六月 帰敬式（おかみそり）

前号でお知らせしたとおりですが、再掲します。

- *日時 6月28日（土）午前11時～正午
- *受式費用 20,000円（うち10,000円は本山礼金）
- *先着順にお申込を受け付けます。6月10日締切り。
- *簡単な事前講習を受けていただきます。
- *お斎（昼食）接待および記念品があります。
- *法名に希望の文字があれば、御相談に応じます。



六月 住職就任式・記念講演

前号でお知らせしたとおりですが、再掲します。講師の尾畑先生は、私（釋眞弍）が最初に薫陶を受けた仏教者であり、社会的視点をもって仏教を学ぶことを私は教えられました。ぜひご聴聞ください。

- *日時 6月28日（土）午後1時半～4時
受付は午後1時より
- *内容 勤行（三誓偈・念仏讃）および記念講演
- *記念講演 尾畑文正師「世の中安穏なれ 仏法ひろまれ」
（同朋大学大学院文学研究科教授、真宗学、著書に『親鸞を生くるといふこと』『真宗仏教と現代社会』など多数）
- *持ち物 勤行本「大谷派勤行集」、念珠、お布施（金封の表書きは、税務処理の都合上、「御祝」ではなく「御布施」として下さい）
- *記念品 当寺オリジナル門徒肩衣
- *終了後、本堂にて28日命日の御家族による合同の月忌法要を勤めます。
（ご自宅への訪問はありません）

七月 声明講習（お勤めの練習）

浄土真宗においてはもっとも基本的なお勤めである「正信偈（しょうしんげ）」を中心に練習します。初心者の方が対象となります。五日間の講習となりますが、全日でなくとも、部分参加もできます。

- *日時 7月24～28日 午後5時～6時
- *受講料 各回につき500円、ただし中学生以下は無料
- *講習内容 24日 正信偈草四句目下

25日 お早引き念仏和讃（同朋奉讃式）

26日 六首引き念仏和讃

27日 六首引き念仏和讃（続き）

28日 和訳正信偈・念仏和讃

*持ち物 念珠、勤行本（講習日により異なります）

八月 盂蘭盆会（うらぼんえ、お盆）

*日時 8月13日（月）午前8時～9時

*内容 勤行（和訳阿弥陀経）、法話（住職）

*持ち物 念珠、肩衣（お持ちの方）、お布施

*記念施本 『抄訳 佛説阿弥陀経』（自照社出版）、教化冊子「お盆」

個別（家族）でのお勤めを御希望の場合は、次のいずれかにより予約して下さい。お経は「阿弥陀経」（音読）です。

1. 本堂でのお勤め

8月14日午前。15分刻みで御希望の時間を指定していただきます。先着順です。十六家族様まで。

2. 家庭の御内仏前でのお勤め

(1)13日午後、(2)13日夜、(3)14日午後、(4)14日夜、(5)15日午後、のいずれかの時間枠をご指定下さい。午後とは1時から4時まで、夜とは5時から8時までをいいます。これ以外の日時は応相談。

法務休暇等のお知らせ

6月14～15日、7月29～30日、8月18～22日

以上の期日を法務休暇とさせていただきます。

6月13日午後1時、7月28日午後6時、8月17日午前8時に、本堂にて一座読経いたしますので、上記期間が命日に当たられるご家族の方は、都合がつく限り、どうぞご参詣下さい。

境内地の拡張について

現在の境内地の南西（本堂に向かって右側）に位置する約200坪の土地を、総代会の了承を得て購入することになりました。これにより、当寺境内地が二倍となります。将来のことはまだ確定していませんが、当面は一部を駐車場として使用することになります。（6月下旬に駐車場ができますので、御利用下さい）

仏事あれこれ (3) ～お盆～

インドには雨期があり、この間は修行僧たちは虫を踏みつぶさぬように外出を控え、また実際問題として遊行が困難だったこともあって、僧院にこもって修行していました。これを安居（あんご）といいます。そして、安居の明ける7月15日に修行僧たちに飲食物を供養するのが習わしでした。

一方、中国で成立した「盂蘭盆経」には、目連尊者が釈尊の教えにより、餓鬼道におちて苦しむ母を、百味の飲食をもって修行僧たちに供養し、その功德によって救ったと説かれます。これが盂蘭盆会の起源で、本来は7月15日ですが、当地では新暦換算した8月15日を中心としてお盆法要が営まれます。

よく、「お盆の時期は地獄の釜が開き、ご先祖様が帰ってくる」といいますが、ご先祖様が地獄にいるという根拠はありません。また先祖の霊というものが文字通り存在すると考えるのも誤りです。浄土真宗の教えでは、亡き人はすべて例外なく阿弥陀仏のご慈悲によって浄土へ往生し、覚って仏と成るのです。その仏様を「霊」扱いしたり、地獄の亡者と見なしては失礼になります。そもそも仏教は靈魂については何も説かない宗教です。「先祖の霊が帰る」というのは、仏教ではなく、日本独自の民間信仰です。

ですから、霊を送り迎えするのに迎え火や送り火を焚く必要はなく、霊膳も必要ありません。先祖の霊の乗り物といわれる馬・牛にみたてたキュウリやナスも必要ありません。

しかし、「仏ほっとけ」とばかりに何もしないでよい、ということではありません。亡き人を偲び、わが身・わがいのちを振り返る大切な時です。仏法聴聞を通して、仏恩を感じ取ってほしいとのご先祖様の願いをいただくのです。こういう意味からお盆法要にご参詣下さい。

永代経懇志お礼

下記の方々から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相続されますことをお願いいたします。

4月19日 慈晃院釋富浄（願主・****、11万円）

5月17日 釋豊淳（願主・****、10万円）

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>